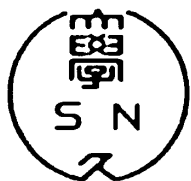


久留米大学医学部看護学科同窓会だより



ふたば

発行所

久留米大学医学部
看護学科同窓会

総数：5,633 名

(令和 2. 3. 31 現在までの卒業生数)

(題字：故 藤井名誉顧問)



大学病院本館

令和

れいげつ 初春の今月にして
きよ 気淑く
やわら 風和ぎ
きょうせん こ ひら 梅は鏡前の粉を披き
はいご 蘭は珮後の香を薫らす



医療センター



看護学科

ご挨拶

同窓会会長

佐藤 和美
(I部2回生)

令和2年の幕開けは、昨年12月、中国武漢市に始まった『新型コロナウイルス感染症』対策に日本中が大わらわでしたが、同窓生の皆様には恙無くお過ごしのことと拝察いたします。そして、皆様から待ち遠しく思っていたら、令和になって初めての同窓会報をお送り致します。例年できるだけ多くの同窓生から記事頂き、看護学科や大学病院の現状、そして同窓生の活躍をお届けしています。カラー写真として顔も懐かしんでいたけるよう工夫しております。皆様からの喜びやお褒めのことが編集委員の苦労を癒します。皆様も近況など投稿してみませんか？

今年は、ナイチンゲール生誕からちょうど200年になり、「看護の日・看護週間(5/10～5/16)」も、Nursing Now「看護の力で健康な社会を」など多彩な行事が計画されるようです。実は私自身もナイチンゲールと同じ5月12日が誕生日なのです。看護学校に入学して初めてそのことを知り驚いたのと同時に、自身の看護の仕事と臨床の現場、教育と言う環境、或いは管理者としてやっていく中で、困難や苦悩に出会ったときに、生涯の仕事として支えるこののよりどころになっていたと考えています。

7月の総会では、懐かしいお顔が集まって、楽しい会になりますように。

顧問

秦 トヨ子
(看護婦養成所45回生)

同窓生の皆様にはお健やかに令和2年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。新春早々に新型コロナウイルスの感染が拡大して、いろんな影響が出て参りました。2月28日からは、小、中、高校が春休みまで休校との事、子育てしながら働いてきた身には、子供達の事が気がかりです。

私も高齢になり、外出時にはマスクをして帰ってきたら手洗いと含嗽をしています。どうぞ皆様も感染には充分気をつけられて元気に乗り切つて参りましょう。

昨年は家人に付き添って幾つかの病院を受診した折に働いておられる2、3人の後輩の方からご挨拶を頂きました。定年後も医療の場で御活躍の事、そして私を覚えていて下さった事が嬉しく心温まる思いでした。久留米大学における看護教育も充実され、市内を中心に後輩の皆様が健康でよりよい医療、看護に力を発揮される事を祈念致します。

看護学科長

久留米大学医学部
看護学科 学科長
三橋 睦子
(I部11回生)

不安定なお天気が続きますが、確実に春の訪れが感じられるようになりました。例年、入学式、戴帽式、卒業式等と催事毎に温かいご支援を賜り、衷心より御礼申し上げます。

卒業生の皆様におかれましては、既に新型コロナウイルスが世界を席巻し、世界が危機状況に陥る中、医療現場の最前線で人々の健康のために、懸命に感染予防と改善に取り組んでおられることと拝察し、心より敬意を表します。

人類はこれまでも幾度となく、感染症パンデミックへの対応に迫られ、ワクチンの開発や治療薬を開発してきています。一方で、風評被害にとどまらずパニック状態における人々の心理は到底信じられない行動へと駆り立てられ、人権侵害や地域紛争を引き起こす経験をしています。感染症問題は、多くの場合、貧困問題と密接に関連しさらなる感染の拡大あるいは蔓延へとつながります。国内での制圧は無論のこと、人とウイルスの戦いですから、人類が1つになり、環境問題、貧困問題、地域紛争問題等と合わせて、適切に怖がり、今できる最善の振る舞いを考えて行動してほしいと思います。

式のない特別な卒業や入学を経験する学生たちが、周りに目を向け、人のためになれるよう、この経験をプラスにできるよう、教育の重責を痛感しております。

久留米大学

1月1日付で、第11代学長に就任しました。

18歳人口の減少など大学を取り巻く環境が厳しくなる中、聞く力や共感する力に加え、決断、忍耐、継続する力を持つて、リーダーシップを発揮して大学運営に努める所存です。

本学では、「教育」、「研究」、「医療」、「社会貢献」の社会的使命を果たし、地域文化のために尽力します。特に少子高齢化が進行する地域との関わりは重要で、昨年末には佐賀県基山町、大牟田市と地方創生に関する協定を結ぶなど、産学官連携をさらに推進する計画です。また、文系学部、および医療系学部学科の再編、新設も視野に協議を進めるなど、時代に順応した特色ある大学創りにも取り組めます。

建学の精神である「国手の矜持（ほこり）」は常に仁なり」を胸に、常に周囲への思いやりを持ち教職員が丸となって地域社会の発展に貢献していきます。

新学長

内村 直尚



久留米大学病院

令和2年4月より病院長を担当させて頂いたことになりました。平成28年度に坂本院長の残任1年の病院長を担当し、今回は3年の間隔をおいての再任です。

久留米大学病院は、特定機能病院、高度急性期病院として、がん拠点病院、高度救命救急を核とし、分院の久留米大学医療センターとともに高度医療を提供して地域医療を担います。私たちは、地域医療を守り、健全な医療経営を実践していかねればなりません。

このような中、いかに若い医療者に魅力ある施設にするかが最も重要な課題です。教職員一人一人が自身の問題としてこれをつとめ、個人、部門、さらに病院全体で解決すべきことを明確にして、協力していかねばなりません。他ではできない高度医療と地域医療の実践を、久留米大学病院の魅力として発信して行きたいと思っています。

新病院長

志波 直人



久留米大学病院

初夏の候、同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

年々、新規医療技術や薬物の開発が進み治療の選択肢が増える一方、高齢化が進み、多くの合併症を持ち複雑化、重症化した患者さんが増加しています。24時間365日患者さんにとって最も身近な存在である看護師に求められている看護実践能力を強化する必要があります。そこで、今年度は、患者さんの生命徴候を注意深く観察し、早期に急変の兆候を察知して対応するために、NEWS（NEWS）（早期警戒スコア）の定着に取り組ましました。スコアリングの結果を客観的に評価し、報告・相談・急変対応チーム要請やICUへの移動を検討するための仕組みが整いつつあります。看護部のスローガンに、今日の医学教育の基礎を築いたウィリアム・オスラーの言葉「Listen to the patient」を掲げました。患者さんに寄り添い、心身のサインを感じ取り、迅速に行動できる医療チームを形成したいと思っています。

「人と地球にやさしい、生命を慈しむ医療」を理念とし、職員一丸となり、邁進する所存でございます。今後ともご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

看護部長

上野 知昭
(Ⅱ部11回生)



久留米大学医療センター

同窓会の皆さまには、日頃よりご支援いただき感謝いたします。皆さまもご存知のように国は在宅医療を推進しており、医療センターは久留米医師会が進める久留米地域包括ケアシステム「KICS」において久留米南西地区の中核病院として在宅医療支援を行います。この取り組みを円滑に進めるためには、地域医療を支援する情報ネットワーク「アザレアネット」「とびうめネット」を活用、推進することが重要となってきました。1人ひとりの患者さんをかかりつけ医と病院が情報を共有して地域全体で支えるしくみです。地域の方々が住み慣れた地域で安心して暮らすために、今後も看護の役割を再考していききたいと思います。

看護部長

大塚 まり子
(Ⅰ部14回生)





2019 年度の同窓会総会は 7 月 27 日 ホテルマリタール創世において開催されました。総会出席者は 119 名でした。総会は、平方真理（I 部 21 回生）、平安直美（I 部 21 回生）の司会により以下の式次第にそつて順次進められました。

一、開会の辞

一、黙祷

一、会長挨拶

一、現状報告

（1）大学病院・医療センター

（2）看護学科

一、受賞者紹介

一、議事

（1）庶務報告

① 諸会議報告

② 活動内容報告

（2）会計決算報告

（3）監査報告

（4）次期事業計画（案）

（5）次期予算（案）

（6）その他

一、閉会の辞

大学病院・医療センターの現状については、久留米大学病院看護部長 上野知昭さん（II 部 11 回生）より大学病院、医療センターの報告がありました。看護学科の現状については、久留米大学医学部看

護学科 森本紀巳子さん（Ⅰ部12回生）より報告がありました。

受賞者紹介では、

秋の叙勲 瑞宝単光章

中島 仁美（Ⅰ部13回生）

日本看護協会会長賞

久富 瑞穂（Ⅰ部1回生）

田中みとみ（Ⅰ部4回生）

安達 康子（Ⅰ部6回生）

福岡県看護協会会長賞

内山 道子（Ⅰ部13回生）

近藤 幸代（Ⅰ部14回生）

野口 民子（Ⅰ部14回生）

内田智穂子（Ⅰ部16回生）

柳瀬 哲子（Ⅰ部16回生）

福岡県勤労者知事表彰

江崎 仁美（Ⅰ部12回生）

福岡県医療・介護及び教育等に従事する看護職員に対する知事表彰

上田真理子（Ⅰ部15回生）

井樋 涼子（Ⅰ部16回生）

平成30年度医学教育等関係業務功労者表彰

藤田 佳子（Ⅱ部5回生）

令和元年度医学教育等関係業務功労者表彰

白土佳津子

一般社団法人日本災害看護学会功労者表彰

三橋 睦子（Ⅰ部11回生）

日本渡航医学会第6回マルコ・ポーロ医学賞受賞

立石麻梨子（学科8回生）

が紹介されました。

議事は宮原聖也さん（学科13回生）、樺島結花さん（Ⅰ部19回生）によって進行され、同窓会会員の皆様の承認を得ることができました。

書記

会計

築地原幸子（Ⅱ部11回生）

水落 裕美（学科5回生）

首藤 敏夫（学科4回生）

松永 紘子（学科10回生）



2019年度の総会を担当して



実行委員長

毛利 総代
(I部21回生)

2019年度同窓会総会は、I部8回生、21回生、II部3回生、看護学科8回生が実行委員を務めさせていただきました。新元号が「令和」となり、初めての総会で、同窓会役員の皆様はじめ、多くの方々にご支援を頂き、本会を終えることが出来たことを心より感謝申し上げます。ホテルマリタール創世で開催された総会は119名、懇親会は95名の出席を頂きました。

特別講演は、福岡県立大学人間社会学部教授の上野行良先生に「いきいき楽しく健康に過ごすために」のテーマで、自分で心のバランスを保つための考え方や方法を身につけるお話しをして頂きました。先生のユーモアな語りで会場は笑いに溢れ、ストレスフルな看護現場の中でもすぐに役立つ対処法を学ぶことが出来ました。

懇親会は佐藤会長の挨拶から、来賓の入部久子先生、田中みとみ先生に乾杯とご挨拶をいただきました。私達21回生が看護師となり30年、これもひとえに先生方や諸先輩方の指導、先輩方が作り上げてこられた道筋、また同僚や後輩の支えがあったからだ実感しております。余興は看護学科8回生の企画で、恒例の「包帯巻き競争」「イントロクイズ」は大盛況、また時代と共に変遷する病院や学校、スタッフの「これまでの歩み」を皆で視聴し、心温まりました。今後も同窓会の更なる発展を願い、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



学科便り

卒業生の動向



写真左:松清 右:担任補佐 福浦 学科3回生

看護学科4年生担任
松清由美子

元号が令和になって初めての卒業式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止になりました。

したが、令和2年3月18日の4年生最後のクラス会にて、看護学科23回生109名に学位記が授与されました。学生にとっては卒業式も祝賀会も、そして楽しみにしていた卒業旅行も自粛しなければならなかった状況ではありませんでしたが、笑顔で久留米大学を卒業しました。在学中、同窓会の皆様には折にふれ、温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

本年度卒業生の進路状況は、看護師96名、一般企業1名、進学は助産師課程7名、養護教諭養成課程3名でした。久留米大学病院には45名の学生が採用を頂きました。今年度は昨年と比べて県外就職希望者がやや多い状況でした。年々、看護師の採用試験の時期が早まり、また厳しさを増す状況の中、学生は自ら進むべき道を定め、希望の進路にいたりしました。

国家試験の結果は、看護師109名中107名、保健師38名中37名が合格を手にし、全員合格の目標は達成できました。でしたが、全国平均を上回る結果でした。最後に、希望と不安を抱え社会に旅立つ彼らを、今後とも温かくご支援、ご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

学生生活を振り返って



中富 航
(学科23回生)

「これから大学生活が始まるのか」と思いドキドキしながら大学に入学して、もう4年が経とうとしています。4年間の学生生活を振り返ると、様々な経験、出会いがあり、とても為になる時間を過ごすことができたと感じています。

同級生の仲間たちと協力し合い、また先生方や先輩方のご指導のおかげで、自分一人では困難なことも乗り越えることができ、感謝してもきれません。4月からは一人一人新天地でのスタートを迎えます。新しい環境では、思い悩むことや辛いことなども少なくないと思いますが、大学生活で得ることができたことを糧にこれからの新しいスタートを切ろうと思います。



今岡 萌
(学科23回生)

久留米大学で過ごした4年間は、あつという間だったと感じます。入学時は、何もわからず期待と不安でいっぱいでしたが、授業を重ねて、実習を経験していくうちに、これから本当に看護師になるんだという実感が湧いてきました。その過程の中で友達や先生に支えてもらうことも多く、みんなのお陰でここまでやってこれたのだと思います。また、大学生活では部活もしていたので、楽しく充実した日々を送ることができました。この4年間、久留米大学で学んだことや経験したことを、これから發揮していきたいと思っています。

研究室だより：小児看護学



(写真右)

小児看護学
藤好 貴子
(学科1回生)

小児保健医療では疾病や障害の有無にかかわらず、あらゆる健康レベルの子ども達を対象とし、携わる専門職の活動の場は近年多様になっています。施設だけでなく地域で生活する子どもを支える看護を目指し、研究室では益守かつき先生、水落裕美先生と活動を行っています。

大学院では専門看護師の育成にも力を入れ、2018年度以降3人の小児看護専門看護師が合格し、後輩も続くべく努力しております。また、毎年夏にはADHDの子ども達を対象とした、学校適応力育成を目指す包括的治療プログラムに学生と共に参加しています。今年6月の第67回日本小児保健協会学術集会は、久留米大学医学部小児科学講座主任教授である山下裕史郎先生を会頭に久留米での開催です。この企画の一部を担当させていただきます。現場でご活躍の同窓生の皆様には、日頃よりご支援いただき、大変感謝しております。今後も小児保健医療の場で教育・実践・研究に努めていきたいと思っております。

大学病院活動報告

R R S 体制構築に向けた取り組み



早川 晴美
(I部28回生)

久留米大学病院では特定機能病院の役割である高度な医療安全管理体制の一環として、2018年4月よりRRS (Rapid response system II 院内救急対応システム) の体制構築に取り組んでいます。RRSとは、患者の状況が通常と異なる場合に、現場の看護師等が定められた基準に基づき、直接専門チームに連絡し、早期に介入・治療を行うことで、ショックや心停止といった致死性の高い急変に至ることを防ぐシステムです。

2018年より医師、看護師でワーキンググループを結成し、重症化の兆候をいち早く察知するために患者観察のポイントやRRS要請の判断基準のアドバイスなど教育的指導を含めた病棟回診を毎週実施しています。2019年6月よりRRS専用PHSを設置し、12月よりRRT (Rapid response team) を発足しました。患者さんの一番身近にいる看護師が重症化の兆候をいち早く察知し、RRS起動に繋がっています。RRTと主治医や病棟看護師がチームとなり、一人でも多くの、予期せぬ心停止を未然に防ぐために、今後も更なるRRS体制の強化と継続に向けて取り組んでいきます。

医療センター活動報告

久留米大学医療センター 創立25周年



写真左：北川 右：高倉

高倉 美里 (I部14回生)
北川 里香 (II部8回生)

令和元年7月1日医療センターは、25周年を迎えました。令和2年1月某日、開院当時からいる北川さんと思い出話をしてみました。

高倉「開院当時ってどんな感じだった？」
北川「私は、事前準備隊として6月中旬に大学より異動して数名のメンバーと内科系・外科系に別れて調整をしました。看護方式とか申し送り時間、消灯時間まで自分たちで考えて、ワクワクしましたよ」

高倉「勤務初日は、ジャージ姿でベッド掃除だったとか？(笑)」

北川「そうですね。そして、平成6年7月1日午前0時国立病院の準夜勤の看護師さんから申し送りを受けて深夜勤、半月ぶりの患者さんへの看護に身の引き締まる思いでした。初めて着るハナイユキコのピンクの白衣が妙に嬉しかった」

高倉「あの白衣かわいかったね。他にどんな思い出がある？」

北川「いつだったか、経費削減で医師もコメディカルもみんなで草むしりしましたよね」

高倉「そう、教授陣も麦わら帽子に首にタオル、マイ鎌持参の教授もいて(笑)」

北川「ほんとに懐かしい(笑)。色々あったけど、大学病院との機能分化で外科が撤退する時には『外科がなくなる』とほんとにびっくりしましたね」と思い出話は尽きません。

機能分化の時は、改めて地域の方々のニーズに応えるために自分たちに何ができるのかを考えさせられました。今後も「チーム医療センター」で、地域包括ケアシステムをリードしていけるよう看護の力を発揮していきたいと思っています。

久留米大学病院・医療センター看護研究発表会



(第7回実行委員)

日々の看護実践を「看護研究」としてまとめるところができるようになりました。私は久留米大学病院の教育専従として、関わっていますが、これからも可視化されにくい看護実践を言語化する看護研究を真摯に取り組んでいきたいと思えます。

各部署からの発表と毎年その時代を反映した特別企画も行っています。第1回から第8回までは「各部署1題」としていましたが、じっくり看護研究に取り組むために「各部署2年に1回の発表」に変更して、2019年度が初めて2年間かけて取り組んだ看護研究の成果発表となりました。部署の特色を活かして

久留米大学病院での看護研究発表会の歴史は長く、1987年に私が就職した当時から、「院内看護研究発表会」があつていたことを記憶しています。その後、「展示発表会」と形態の変遷はありますが、看護研究発表会は継続されています。そして、平成22(2010)年度より、「久留米大学病院・医療センター 看護研究発表会」を、「看護職員が取り組んだ看護研究の成果を共有し、看護の質の向上を目指す」を目的として毎年実施するようになり、令和元(2019)年度は、第10回目を開催することができました。このように継続していけることは、多くの皆様のご協力の賜物と感謝しています。

第10回を開催して

兒玉 尚子

(I部16年生)

研究発表会テーマ

2010年度 第1回：～看護の力！再発見～
2011年度 第2回：看護の力を育む
2012年度 第3回：輝け☆看護の力
2013年度 第4回：はばたく 看護の力
2014年度 第5回：つながる 看護の力
2015年度 第6回：深める 看護の力

2016年度 第7回：伝えよう 看護の力
～知識・技術・態度を伝承・伝授する～
2017年度 第8回：奏でる 看護の力
2018年度 第9回：未来を支える看護の力
～ひとつ先のニーズに応える～
2019年度 第10回：その人らしさを支える看護実践
～語り・聴き・共有する～

卒業生の保健師就職支援



立石 麻梨子

(学科8年生)

平成23年のカリキュラムの一部改正に伴い、福岡県の既存大学(当時)の保健師養成枠は、1校あたり18名の選択制となりました。本学科は、地域で活躍する看護職の養成を目指しており、近隣県の保健所・市町、企業・学校のご協力を賜り、約40名の学生が選択できています。臨床経験後に保健師として活躍している卒業生が多いことは、本学科の特徴です。同窓生の皆様には常日頃よりご指導とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。地域看護学領域では、保健師就職情報(正規採用・任期付き採用等)をメール配信しています。配信を希望する卒業生の方は メール hokenshi_info@kurume-u.ac.jp 宛に、①氏名(旧姓)、②回生or卒業年度、③配信先メールアドレス をご連絡ください (QRコードを読み込むと宛先が入力されます)。



大先輩へのインタビュー



古川 節子

(旧姓 石橋)
(看護婦養成所29回生)

大正15年生まれの私は、昭和16年4月に入学し寄宿舎生活が始まりました。入学してすぐに食料の配給制度が始まり、私の学生時代は空腹と我慢の日々でした。ある時、友人がそうめんを持っていたのですが、茹でるための燃料がなく、持ち寄った手紙をねじり薪の代わりにしたことを覚えています。そんな中でも当時の舎監から、生け花やお茶を教えて貰った時間は憩いのひと時でした。やがて昭和20年に大学病院を去り、結婚後は近くの小学校で養護教諭として働きましたが、いつの時も看護師の資格が私の生活を支えてくれました。今は老人ホームで暮らしていますが、今でもあの時の学生時代のこと、友達のことが輝きをもって思い出されます。

インタビュー・代筆 I部9回生 龍頭榮子

イキイキ同窓生だより



野口 民子

(I部14回生)

「今年、還暦を迎えます」

3月になり、看護学科「生活援助実習I」の実習の1年生と病棟でお会いしています。初々しい姿を見て40年前の自分を思い出しました。病棟指導者が、様々な看護技術を体験させてくださったことやカンファランスでの話を根気強く聞いてくださったこと、実習中に仲良くなった患者さんを就職して受け持ちになったことなどです。患者さんに喜ばれた「ありがとう」と言って

もらえた体験が、ケアする喜びにつながったように感じました。

就職してからも先輩方のご指導をいただき、伸び伸びと育ててもらえました。過去にきつい辞めたいと思ったこともありましたが、久留米大学病院、看護部にしっかりと見守られてきたのでこれまで仕事を続けてこれたのだと感謝しています。そして、「一緒に定年まで働こう」と励ましてくれた同期生の皆さんありがとうございました。



藤崎真佐子

(I部3回生)

3回生です。70歳ですがまだ現役のケアマネジャーとして勤務しています。利用者は認知症や慢性疾患を患っている方を持つことがほとんどですが、看護師の経験が活かしています。昨年から通信大学の歴史学科の学生もしています。テキストを読む時間やレポート

を書く時間がなかなか取れず苦勞していますが、8年間は在籍できるので生涯勉強できればいいかなと思っています。なかでもスクーリングは講師から直に学べるし、大好きな京都に行ってお寺や歴史の跡を巡るので楽しんでます。二足のわらじでかなり大変ですが頑張っています。



河原えみ子

(II部4回生)

同窓生の皆様、益々ご健勝のことと存じます。

イキイキ同窓生だよりの原稿の依頼のお話を頂いたころは、「新型コロナウイルス感染症」が猛威をふるいはじめた頃でした。この新たな感染症の拡大によって、健康やモノのありがたさ、日頃の行動や正しい判断が重要である事、デマは怖いな～などの気づきが沢山ありました。「ふたば」が皆様に届くころには落ちついていることを祈っています。

私は、2年前に定年退職を迎え、ご縁があり、現在は医療法人十全会 おおりん病院で看護部長として地域医療に従事しています。当院は341床の精神科主体の一般内科を有する病院です。今年は創立60周年を迎える歴史ある病院です。少子超高齢化現象でストレスが多い社会で、精神障害を抱え生きづらさを持たれた方の看護に携わっています。労働人口が減少する中、引きこもり人口が60,000人とされています。地域社会のお役に立てるように「心と体」の医療・看護ができる病院を目指し何事にもチャレンジ精神で取り組んでいます。久留米大学病院で看護の基礎から学び、多くの臨床現場での経験、また、多くの先輩や仲間と一緒に実践してきた事が今の私の役割に繋がっていると感じ感謝致しております。

人生100年時、生かされている事に感謝し、生き生きと楽しく地域のお役に立てればと思います。



野田久美恵

(I部26回生)

私は平成7年度に久留米大学病院に就職し26年目を迎えました。私は子供の頃から看護師を目指していたのではなく、むしろ親から勧められても絶対に嫌だと思っていました。しかし高校2年生の時、担任の先生に無理やり保健委員に指名されたことをきっかけに看護学校に進学し、看護学校で中嶋カツ工先生と出会って助産師を志し、産科病棟の実習指導者だった田中佳代先生との出会いで就職を決め、今に至ります。振り返ると、本当に不思議です。産科病棟には同期6名で就職し、“多胎の早産児”と言われながら厳しく、温かく、育ててもらいました。そして主任看護師になる時に初めて婦人科病棟に異動し、NICU、特別病棟を経て、看護師長2年目に産科に戻りました。詰めが甘い私ですが、上司やスタッフに恵まれて好きな仕事ができる、この素晴らしい出会いに感謝しています。これからももっともっと、患者さんやスタッフを喜ばせて、笑顔で過ごしていけたらしあわせです。



松尾留美子
(学科10回生)

私は大学病院勤務を経て、今は人間ドック施設に勤務しています。

人間ドックは健康な人が早期発見の為に来られる事が多く、受診者様の健康意識も高いと感じられます。そのため受診者様の既往歴や現病歴に合わせて、対処と処置ができるように日々勤めています。

大学在籍中には保健師資格を活用することはなかったと思いますが、ドックでは事後指導や特定保健指導で保健師が関わる業務が多く、保健師の資格を取得して本当に良かったと思っています。

大学時代は久留米という住んだ事もなく、友達もいない環境に飛び込み、無事に卒業し、国家資格を取得できたのは、本当に先生、同級生、先輩、後輩に恵まれていたからだと思います。ありがとうございました。



松田 美奈
(学科22回生)

私は、久留米大学大学院助産取得コースの第4回生で、助産師になるために勉強に励んでいます。大学院1年の前期は、助産師に必要な知識やニーズに対応するためのアセスメント能力を高め、後期では、妊婦健診演習や分娩介助技術など、主に助産実践能力を高めるための学びがありました。大学院での生活は、自己学習や課題、分娩介助技術の練習など、目まぐるしい日々で、何度も挫折しそうになりました。また、このまま続けられるだろうかと不安もありました。しかし、先生方と同期の心の支えがあったからこそ、乗り越えることができました。助産学分野の先生方に、親身にご指導や相談に乗ってください、大変感謝しております。また、同期で支え合うことで、お互い成長できた実感しています。思いやりのある心でニーズを捉え、助産ケアを行える助産師を目指すために、これからも、笑顔を絶やさず、ONE TEAM、頑張りたいと思います。

クラス会便り



I部21回生
丸山 紀子

令和元年7月27日に、久留米大学医学部付属看護専門学校1部21回生の同窓会を開催しました。そう、ご存じのように、同窓会総会の主要幹事担当回生当日でした。さすがの21回生！長いブランクもなんのその。強い団結力と、個性の強さで、ほぼぶっつけ本番に近いにもかかわらず、見事に(?)盛会に終えることができました。そして、当時の担任教諭だった、中島教授にも、「とても手のかかる学年だった」と、うれし、はさかし言葉もいただきました。

無事に総会を終えた後は、待ちに待った同窓会。と思いきや、時間が余ったメンバーから、懐かしい大学ツアーを是非！とお願いされました。はば、30年ぶりのメンバーもいて、近代的になった建物、昔と変わらない場所など、驚きと懐かしさでいっぱいになりました。その後、21回生の約半分の22名が集まり、現在の皆の活躍の話、アルバムを見ながら当時の苦楽を語ったりと、とても思い出深い一日となりました。



令和2年度 久留米大学医学部看護学科 同窓会総会のお知らせ

■日時 令和2年7月11日(土)

■総会
総会、懇親会ともに中止になりました。

久留米大学医学部看護学科B棟1階
講義室8.9(旧看護専門学校1階)
TEL 0942-31-7590(同窓会事務局)

担当回生

I部9・22回生

II部4回生

学科9回生

同窓会活動

1. 総会と懇親会の開催(年1回)
2. 代議員会・幹事会・三役会の開催
3. 機関誌「ふたば」発行(年1回)
4. 同窓会名簿の管理
5. 会員・準会員・関係者の慶弔に関すること
6. 看護学科の諸行事に出席・贈花
◇入学式、戴帽式、卒業式
◇卒業生に記念品贈与
7. 看護学科の校友会への支援
◇看護学科の主催する学会や研究会への支援
◇他学部同窓会との連携
8. その他

お悔やみ申し上げます(敬称略)

23回生	古賀ミツ子(古賀)	H31.2.12
25回生	大久保フユ子(川副)	H28.9.28
30回生	山下 政子(西田)	H31.1.28
33回生	谷川スヤ子(井村)	R1.5.12
33回生	柳瀬クニ子(原)	不明
35回生	梅崎ユキエ	H31.4.5
35回生	國崎 静子(畑田)	H30.9
35回生	百武喜久江	R2.4.11
46(II-1)回生	高尾 翠(相馬)	R1.12.30
I-2回生	永江 信枝	R1.8.9
I-27回生	渡口 美和	R1.10.30
学科-7回生	森山 絵理(本多)	R1.10.18

(この1年間にご連絡を頂いた方です)

同窓会事務室案内

場 所：看護学科B棟(旧専門学校校長室)

住 所：〒830-0003
久留米市東櫛原町777-1

時 間：月・木9時～13時まで
事務代行待機の曜日と時間
その他はFAXをご利用ください。

TEL：0942-31-7590
(内線3960)

FAX：0942-37-0322

URL：<http://nurse.kurume-u.ac.jp/>

メール：kurume_kango_dousoukai@yahoo.co.jp

投稿のお願い

久留米大学医学部看護学科同窓会だより「ふたば」では、同窓生の他方での活躍を、幅広く知っていただきたく、皆様からの自薦・他薦での投稿を心よりお待ちしております。



編集委員
安部ゆかり(I部22回生)
伊崎 美紀(I部22回生)
楠 美奈(I部22回生)
山口 霧子(I部22回生)
大内田慶子(学科9回生)
田中可南子(学科9回生)

同窓会の皆様にご助力を賜り、無事にふたば27号を発行することができました。この場を借り厚く御礼申し上げます。
多くの同窓生にお読みいただき、ふたばに寄せられた方々の思いが皆様の更なる力になることを、編集委員一同、心より願っております。
編集委員一同

編集後記